

## 第1回 運営推進会議 質疑応答まとめ

カフェ利用者まで拡大して考えていませんでしたが、今回の運営会議で気付かされたのでコミュニティカフェにおけるリスクマネジメントも今後研修の機会を設けて具体的な対策を検討したいと思います。

Q6. 入り口が1箇所しか見当たりませんが、非常時に使える非常口が別にありますか？

A6. 職員玄関の方に非常口がもう一箇所あります。非常時には利用者の身体レベルに合わせて、職員が誘導する場所を分けて、車椅子利用の方は正面玄関の入り口から、歩ける方は職員玄関の入り口の方からばやくこの場から離れるようにします。

Q7. 送迎の車は何台ありますか？

A7. 現在2台運行しています。

Q8. 送迎車両は2台で間に合いますか？どの方面の送迎が多いですか？

A8. ほ一ふの事業所を基準に、左右ほぼ半々の比率であり、一定の場所に集中していません。現在のご利用者の人数から送迎車両2台で間に合っています。

Q9. マンション(小樽グランドパレス)の利用者はいますか？

A9. 現在4名の方が利用しています。

Q10. 商大生のボランティアが来るようになったきっかけは何でしょうか？

A10. 商大生が当施設の前で地域の方に声掛けしているところを見かけて、当施設の職員から商大生に声掛けをして話を聴きました。商大生より地域の方と係わりを持ち、困った方を助けて、皆様の力になりたいとお話がありました。ほ一ふは地域の方が通う施設の一つであることを伝えて、協力を求め、ほ一ふと商大生を繋げるようになりました。この間は商大生と利用者が一緒にカラオケを楽しみました。

Q11. 今後商大生とどのような活動を考えていますか？

A11. 現在、商大生と具体的な活動内容は決めていません。商大生の今回のプロジェクトの活動期間または、月どの程度の頻度でほ一ふと一緒に活動できるのか等の内容が未確定であります。可能であれば今後、ほ一ふが利用者様と外出の際に一緒に行動できるとありがたいです。

Q12. 現在中部包括と商大生でボランティア活動をしています。今後ほ一ふも一緒にボランティア活動参加できないでしょうか？

A12. 地域の為に力に成るのであれば、可能な限り参加したいと思います。活動の際にはほ一ふにも声を掛けてください。

### ■補足説明

現在のところイベントとして活動資金カンパの為のバザー、地域の高齢者のサポート、季節ごとに必要なサポート、例えば冬は雪かき、春は雪割、夏は家庭菜園のお手伝い、秋は庭木や窓の冬囲い等、その他買い物や掃除、又は学童時には勉強のサポートのためにコミュニティカフェを開放する等の話し合いを行なっています。このようにいくつかアイデアがありますので、中部包括様にもご協力いただく際は宜しくお願い致します。

### < 参考 >

■黒文字: 質疑 / ■赤文字: 応答 / ■青文字: 補足説明

Q1. 送迎エリアはどうなっていますか？

A1. 塩谷・朝里を除く小樽市内となります。

Q2. ほ一ふ周辺の建物にAEDを設置してるところが無いと思いますが、ほ一ふにはAEDが設置されていますか？値段が高いから簡単に購入は出来ないと思いますが・・・

A2. 現在、AEDは設置されていません。

### ■補足説明

AEDにつきましては市民の急変時の安全対策として広く認知されているところです。現在ほ一ふでは職員からも要望が出されており、救急救命士の指導を受けられるルートも確認しています。設置の時期等については現在検討中です。

Q3. コミュニティカフェに一般の方が利用する時、対応にあたる職員は配置されていますか？

A3. コミュニティカフェは誰でも自由に利用できる場所ではありますが、専属の職員は配置されていません。しかし、デイの職員がカフェ利用者に気付いた時は挨拶をします。その他、困ったことがあれば、気付いた職員が対応をするか、張本が対応します。

Q4. コミュニティカフェは誰でも自由に出入り可能ですが、もしインフルエンザの方やノロで嘔吐をする人がいたらどのように対応しますか？

A4. ほ一ふでは感染症対策として社内研修を行ない具体的な対応方法を学びました。ノロ対策としては予めノロ対応キットを用意しており、何箇所に分けて保管して職員が直ぐ使える状態にしています。もし、ノロ患者による嘔吐物が発生した場合は、嘔吐物処理の為、消毒液をバケツのどの程度まで入れるべきか分かるように、すでにバケツに線を引きやすく使えるようにして置いてあります。嘔吐物等の処理は、それに気がついた職員が業務に当たります。職員の業務はデイの利用者さんが優先になりますが、コミュニティカフェ利用者に関しても、患者が発生した場合はデイの職員が対応を考えています。

### ■補足説明

リスクマネジメントの観点からノロウイルス、インフルエンザの感染対策として職員研修を行なっています。具体的な対策として、ご利用者様には入り口に手指消毒液を設置し、必ず使用してもらっています。また手洗いについてもご自宅で出来るようイラストで説明したチラシを配布し、ほ一ふでも昼食前には必ず正しい手洗いが出来るよう、その都度職員が付き添い行なっています。さらには、昼食前にテーブルの消毒清拭を行なっています。また、「感染グッズ」として専用の掃除消毒用具、車内での感染予防として送迎車、訪問の営業車にも嘔吐時に対応できる簡易グッズを常備しています。

Q5. 「コミュニティカフェ」と「デイサービス」を利用する方が使うスペースは、壁や段差等により区別がされていて良いと思いますが、一般の方が利用することで様々なリスクが考えられます。リスクはどのように考えていますか？

A5. ほ一ふでは社内研修を通して「想定内のリスクマネジメント」と「想定外のリスクマネジメント」に分けて学びました。デイサービス利用者に係わるリスクマネジメントとしては、利用者の避難が必要な事故が発生した場合、利用者さんをどの部屋に、どのような方法で避難させるかを検討しました。他にも全職員を対象に避難訓練を行い、職員一人ひとりの役割を決めて利用者の誘導も含めて、実際避難にかかった時間を計りながら訓練を行ないました。今後も年2回以上避難訓練を実施する予定です。リスクマネジメントの対象範囲をコミュニティ